

リサーチ TODAY

2017年 5月 26日

「Jノミクス」で韓国はどうか

専務執行役員 チーフエコノミスト 高田 創

5月9日に投開票が行われた韓国の大統領選では、最大野党である「共に民主党」前代表の文在寅(ムン・ジェイン)氏が41%の票を得て当選した。文政権で注目されるのは、分配を重視し雇用拡大や財閥改革を掲げる経済政策と、北朝鮮への融和姿勢による外交関係への影響である。みずほ総合研究所は、文氏の当選を受け今後の政権運営に関するレポートを発表している¹。下記の図表は文大統領の主張をまとめたものだ。2012年の時と比べて財閥への対応は現実的なものとなっているが、前政権が財閥との癒着で罷免の対象になったため、引き続き財閥対策が注力される状況にある。今後、文政権は内政では「革新系」と「保守系」の間で、外交・安全保障政策では米国・日本と中国・北朝鮮との間で、バランスが必要になり、困難な政権運営が見込まれるだろう。

■図表: 文在寅氏の主張(2012年大統領選挙時との比較)

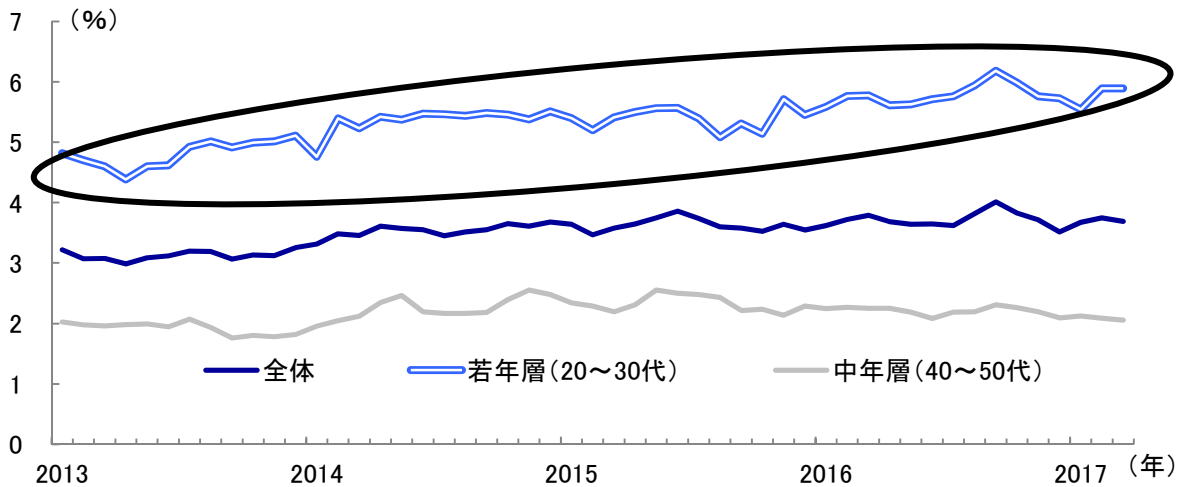
	文在寅氏	2012年大統領選挙時
経済政策	<ul style="list-style-type: none"> 所得主導成長(若年層の低所得改善) 政府部門の雇用拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 公正な市場経済を確立 国民経済の構成員すべてが持続的な成長を目指す
雇用	<ul style="list-style-type: none"> 公共部門で81万人、民間で50万人の雇用創出 雇用創出のための専門組織を新設 	<ul style="list-style-type: none"> 非正規職の割合を半分に減らす
財閥改革	<ul style="list-style-type: none"> 4大財閥の改革に集中 大財閥から順番に労働者の経営参画に道筋 	<ul style="list-style-type: none"> 循環出資を3年以内に解消 出資総額規制を再導入
産業政策	<ul style="list-style-type: none"> 原発政策を全面的に再検討 	<ul style="list-style-type: none"> 安全に問題のある原発を閉鎖、新設は白紙化

(資料) 各種報道等よりみずほ総合研究所作成

今回、韓国の大統領選で「分配」を重視した政策が注目されたのは、韓国における雇用問題に焦点が集まっていたためである。次ページの図表は、韓国の年代別の失業率を示す。韓国では若年層の就職難が社会問題になっており、朴前大統領在任中の2013年2月から2016年末にかけて、中高年(40~50代)の失業率が横ばいだったのに対し、若年層(20~30代)の失業率は1%程度悪化している。こうした状況下、文氏は選挙公約で公共部門で81万人の雇用を創出するとし、加えて民間部門への要請を通じ50万人の雇用拡大を目指すなど、雇用改善を前面に出していた。これらの政策は、ムン・ジェインの頭文字をとって「Jノミクス」と称される。このような「分配」政策重視はばらまき政策の不安を生じさせるし、財閥規制のような

アンチ・ビジネスの政策は、2009年に日本で誕生した民主党政権を思い出させるものがある。

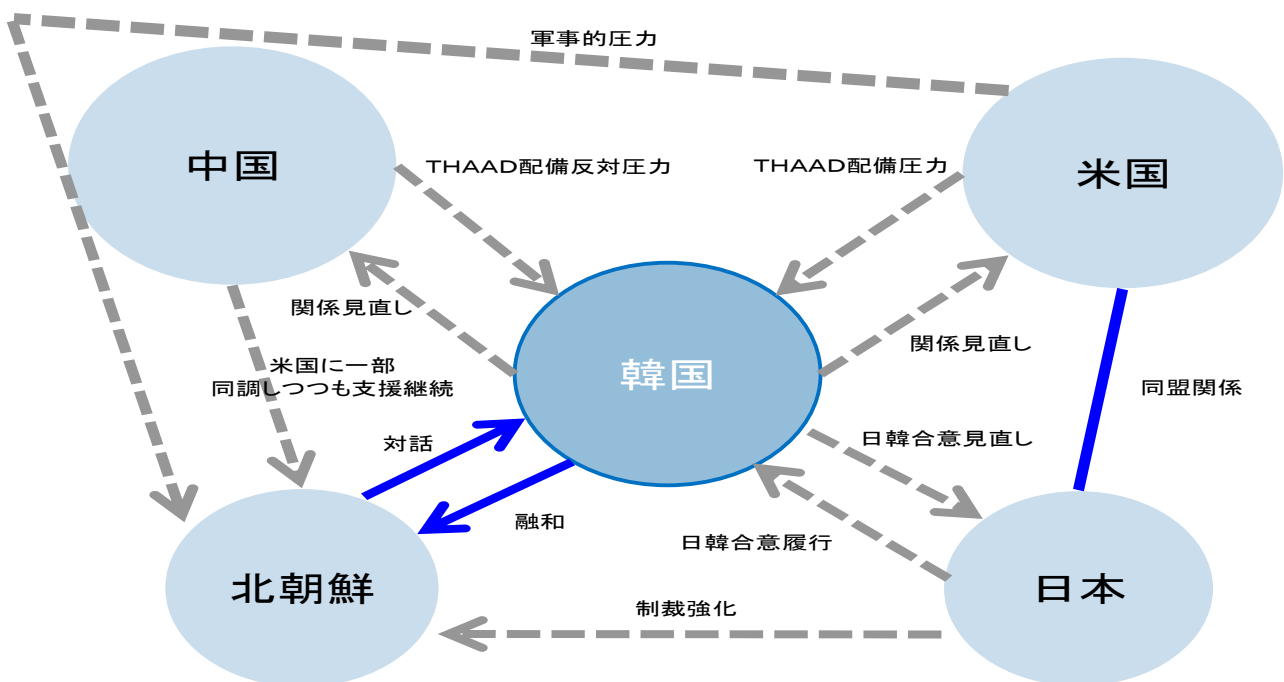
■ 図表：韓国の年代別失業率の推移



(注) みずほ総合研究所による季節調整値。
 (資料) 韓国統計庁、CEIC、みずほ総合研究所作成

外交・安保政策では、下記の図表に示されるように特に北朝鮮およびTHAAD(地上配備型ミサイル迎撃システム)配備問題への対応を巡り、韓国は中国と米国・日本との間で板挟みのような状態にある。THAAD配備問題については、米国との間で2017年内の配備が確認されている一方で、中国が反対している。それゆえ、文政権としては方針を明確にすることは避け、北朝鮮に対する中国の対応を見守りつつ、米国と協議を続けることになるだろう。ただし、こうしたバランスを取ることは容易でないため、文大統領には就任直後から困難な政策運営が求められる。

■ 図表：韓国を取り巻く外交・安保の情勢



(注) 良好な場合は実線、疎遠な場合は点線。
 (資料) 現地ヒアリング、各種報道等より、みずほ総合研究所作成

1 「韓国大統領選に勝利した文在寅氏」(みずほ総合研究所『みずほインサイト』2017年5月10日)

当レポートは情報提供のみを目的として作成されたものであり、商品の勧誘を目的としたものではありません。本資料は、当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成されておりますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。また、本資料に記載された内容は予告なしに変更されることもあります。